

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	51人	算数	51人	理科	51人
第5学年	国語	49人	算数	49人	理科	49人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

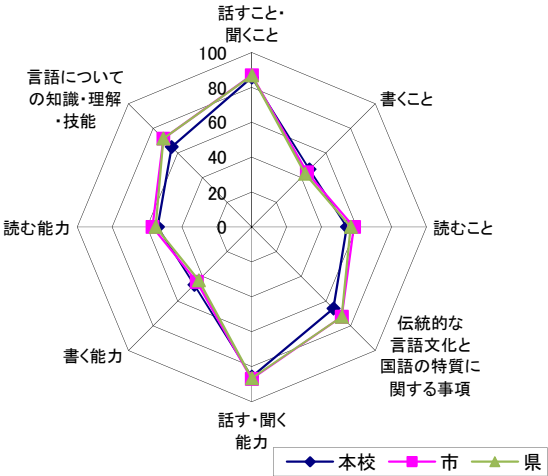
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	85.7	87.0	86.7
	書くこと	46.7	44.5	43.1
	読むこと	54.4	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.0	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	85.7	87.0	86.7
	書く能力	46.7	44.5	43.1
	読む能力	53.9	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	65.0	71.7	71.7



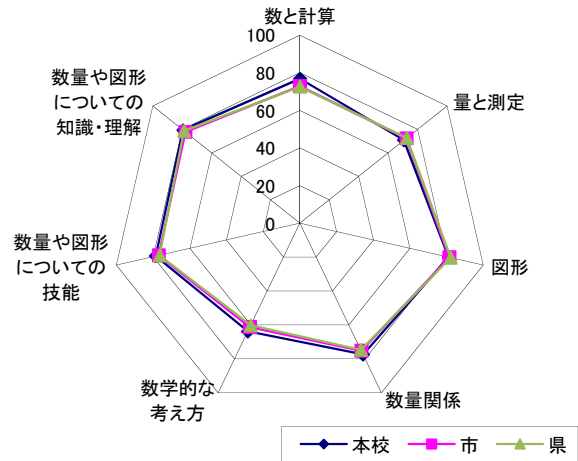
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は85.7%で市の平均を下回っている。 ○設問別に見ると、「互いの考えの共通点を整理して聞くこと」は、市の平均正答率を5ポイント上回っていた。 ●「話の中心に気を付けて聞くこと」は、正答率が低かった。	・日常の学校生活の中で、相手の言いたいこと(話の中心)は何かを意識して聞くようにさせるとともに、話の内容をしっかりとらえ集中して考えながら聞く習慣をつける。
書くこと	○平均正答率は46.7%で市の平均を上回っている。 ○設問別に見ると、お礼の手紙で「報告書の構成を理解すること」「書こうとすることの中心を明確にし、記述すること」は市の正答率を大きく上回っており、身に付いているといえる。	・自分の考えや感想などを文章で表現する機会を多く設け、書く力をさらに高めていく。
読むこと	●平均正答率は54.4%で、市の平均を下回っている。 ●設問別に見ると、物語では「叙述を基に場面の移り変わりを読むこと」「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むこと」、説明文では「文と文のつながりに注意して、文章を読むこと」の正答率が低かった。 ○説明文の「目的や必要に応じて中心となる語や文をとえること」の正答率が市の平均を上回っていた。	・ブックトークや読み聞かせなどを通して読書を啓発し、読書量を増やしていけるように指導していく。 ・授業では、指示語や文脈に気を付けて読む指導を今後も続けていき、読解の手掛かりになるような語句を自分で見つけられるようにさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は66.0%で、市の平均を下回っている。 ●漢字の読みでは、「指定」の正答率が低く、漢字の書きでは、「交通」「相談」の正答率が低かった。 ●設問別に見ると、「ローマ字による書き方の理解」「反対の意味の言葉の理解」の正答率は市の平均を大きく下回っている。 ●言語に関する知識が身に付いていないといえる。	・3年生までに学習した漢字の復習に力を入れ、確実な定着を図る。また、新出漢字を覚える際に、同音や同訓の既習の漢字や形の似た既習の漢字を提示して復習の機会を増やしていく。 ・ローマ字表を掲示するなど、日常的に見られるようにし、ローマ字にふれる場を増やしながら復習により定着させていく。 ・授業の中で、言葉のきまりにつて学習する機会を増やし、正しい言葉の使い方の定着を図る。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.8	72.9	72.6
	量と測定	70.7	72.4	72.6
	図形	81.1	81.4	82.1
	数量関係	77.4	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	63.8	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	78.6	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	79.4	77.8	78.8



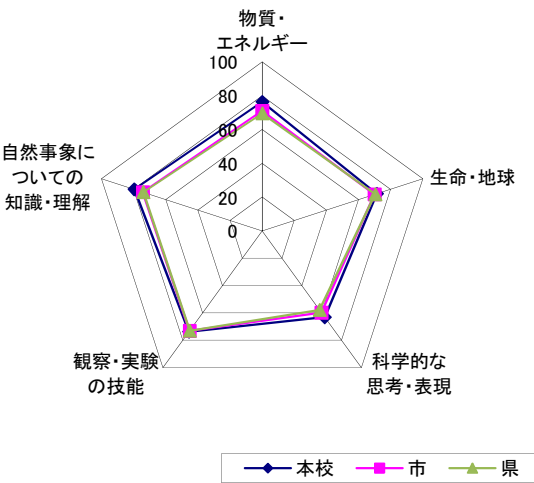
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は76.8%で市の平均を上回っている。 ○ほとんどの問題で市の平均を大きく上回っており、ひき算・かけ算・わり算の計算や分数・小数のしくみについてよく理解している。 ●「3位数×2位数=4位数」の問題の正答率が、市の平均よりわずかに低かった。	・さらに習熟するよう、プリントやドリルなどを活用して繰り返し復習し、定着を図る。
量と測定	●平均正答率は70.7%で市の平均をやや下回っている。 ●設問別にみると、「重さのはかりの読み取り」の正答率が市の平均を大きく下回っていた。 ○重さの「身近にあるものの重さを推察すること」、長さの「kmとmの単位の関係」の正答率は市の平均を上回っていた。	・身近なものの重さを推測したりはかたりしながら、目盛りの読み取り方などを復習し、適切な単位を使って表す機会を意図的に設けるようにする。
図形	○平均正答率は81.1%で市の平均とほぼ同じである。 ○設問別にみると、「二等辺三角形の作図」の正答率が市の平均を大きく上回っていた。 ●「円の直径の理解」「正三角形の定義の理解」の正答率が市の平均より低かった。	・円や三角形については、授業で扱う時期も限られているので、プリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設け、知識や技能の定着を図る。
数量関係	○平均正答率は77.4%で市の平均を上回っている。 ○設問別にみると、「□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶこと」の正答率が市の平均を大きく上回っていた。棒グラフでは、「目盛りの読み取り」や「提示された条件に該当する項目を示すこと」の問題が市の平均を上回っていた。	・既習内容がしっかり身に付くよう定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	76.4	71.1	69.6
	生命・地球	71.3	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	63.1	59.8	57.8
	観察・実験の技能	73.7	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	79.6	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、76.4%で、市の平均より5ポイント高い。 ○物の重さ、風やゴムのはたらき、光のせいしつでは、すべての問題で市の正答率を上回っていた。設問別にみると、「違う姿勢で体重計に乗っても重さは変わらないこと」「物は体積が同じでも種類によって重さが違うこと」「鏡で反射した日光を重ねた部分を比べて同じ明るさの部分指摘する」「導線の安全なつなぎ方」の正答率が、市の平均正答率より10ポイント以上高かった。 ●「磁石を近づけてはいけない物」「電気を通すものと通さないもの」の理解については、市の平均正答率をわずかに下回っていた。	・実験結果から導かれた知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、知識の定着を図る。 ・理科で学習したことを、身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。
生命・地球	○平均正答率は、71.3%で、市の平均より高い。 ○ほとんどの問題で、市の平均正答率を上回っていた。特に、昆虫と植物の「植物の育ち方の順序」についての正答率が、市の平均より14ポイント高かった。 ●「虫眼鏡の正しい使い方」「昆虫が特定の場所にいる理由」「温度計の正しい目盛りの読み方」の理解については、市の平均を下回っていた。	・身近な自然や事象について「なぜ」「どうして」と思うよう促したり、自分の目で確かめてみることをすすめたりし、科学的な興味関心をさらに高めさせたい。 ・季節の変化について日常的に話題にし、温度、天体、草花や樹木、身近な生き物などの様子に気づく機会をさらに増やしていく。 ・観察や実験に使用した器具や道具についての正しい使い方や使用上の注意について、確認復習させる。

宇都宮市立昭和小学校 第4 学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習面では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」について肯定的回答が市全体より15ポイント、「学校の授業の予習をしている」について肯定的回答が市全体より10ポイント、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」について肯定的回答が市全体より10ポイント、それぞれ高いことから、良好な家庭学習の習慣が身に付いているといえる。

○「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」「むずかしい問題にであうと、やる気がでる」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業を集中して受けている」の肯定的回答が、いずれも市全体を上回っている。このことから、学習意欲や学習に対する好奇心が高いと言える。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「クラスの友だちとの間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について肯定的回答が市全体を上回っていることから、話し合い活動の充実感を感じている児童が多いと言える。

○「クラスは発言しやすい雰囲気だ」「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」について肯定的回答が市全体を上回っており、自分の意見を発表することに対して自信をもって授業に臨んでいることがうかがえる。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答は94%と高く、教師への信頼度が高いことがうかがえる。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」についての肯定的回答が市全体より高いことから、学校における自己肯定感が高いと言える。

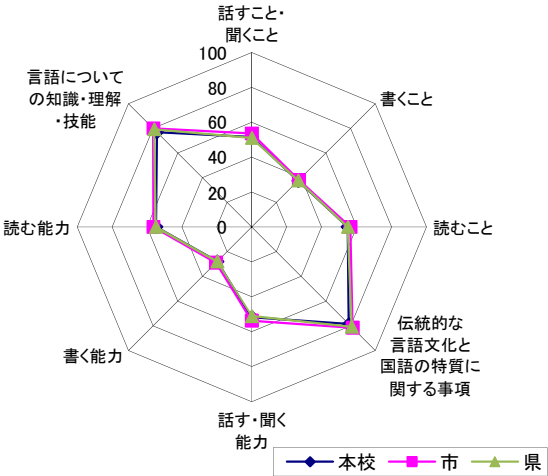
●「授業時間以外の勉強時間」についての調査では、平日、休みの日ともに市の平均よりも下回っており、中には全くしないという児童も10%前後おり、家庭学習の習慣化については個人によって差があることが分かる。

●「わからない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」についての校内肯定的回答率が50%を下回っており、調べ学習においての資料の活用への理解が低いことがうかがえる。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	51.6	53.6	51.0
	書くこと	37.5	38.1	37.6
	読むこと	54.9	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.6	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	51.6	53.6	51.0
	書く能力	27.9	29.0	28.0
	読む能力	54.9	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	76.9	79.9	79.1



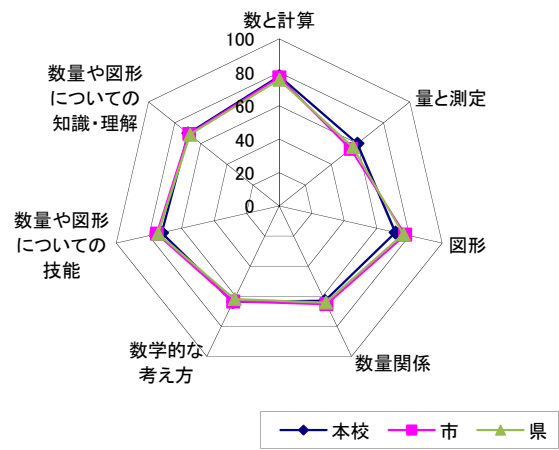
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、51.6%で県の平均をわずかに上回っているが、市の平均を下回っている。 ○設問別に見ると「司会者の話し合いの進め方の工夫について理解している」に関する問題では、県の平均を14.4ポイントと大きく上回っており、「互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことができる」においても、7ポイント上回っている。 ●「話し方の工夫に気を付けて聞くことができる」においては平均を下回っている。	・国語の授業はもちろんのこと、その他の教科や学級活動・学校行事などにおいて、相手の話を集中して聞こうとする習慣をつけ、話し手の意図や気持ちを聞き取る力の定着を図るとともに、自分の伝えたいことを、正しく発信できる力を高めさせる。 ・話し合い活動において、司会者や記録者などの役割を経験させることによって、話し手や聞き手のスキルを高めさせるようにする。
書くこと	●平均正答率は、37.5%で市の平均をわずかに下回っている。 ●与えられたテーマに対する記事を条件に合わせて書く設問において、字数を満たし3段落構成で、段落ごとの役割(「理由」「具体例」「まとめ」)を理解して書くことができるか否かの個人差が大きい。	・感想などを自由に書くという学習活動だけでなく、目的に応じて必要な条件を満たしながら文章を書く機会を設定していく。 ・個人差への対策として、課題を与える際に難易度を変えた教材を用意し、ステップを踏んで書く力を定着させていくような教材の工夫を図る。
読むこと	●平均正答率は54.9%で、県の平均とほぼ同じで、市の平均をわずかに下回っている。 ○説明文の読解において、「目的や必要に応じて、段落相互の関係をとらえることができる」では、県の平均を12ポイントと大きく上回っており、物語文の読解においては、「叙述を基に場面の様子を読むことができる」も上回っている。 ●「中心となる語や文をとらえること」「登場人物の気持ちを想像して読むこと」においては、市の平均を下回っている。	・説明文においては、叙述を正確に読み取るための指導として、語句の意味を調べたり段落の構成をとらえたりさせる。さらに、指示語や接続語など読解のキーワードに気付いて読むことを通して、要旨をとらえる力を高めていく。 ・物語文においては、場面の情景や登場人物の心情を想像しながら読む力を高めさせたい。そのために、ブックトークしたり学級文庫の充実を図ったりしながら読書を啓発し、読書量を増やしていく。読書カードや本の紹介などを通して、感じたことを自分の言葉で表現する機会を多く設けていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は、78.6%と、市の平均よりも低い。 ○漢字辞典の使い方の理解は、県の平均をわずかに上回ることができた。 ○指示語の使い方の理解も、県の平均を少し上回っている。 ●慣用句の使い方の理解と、読点の打ち方の理解が低い。	・漢字の読み書きについては、新出漢字を学習する際に、同じ部首や同音・同訓の既習の漢字提示して復習の機会を増やし、定着を図っていく。 ・慣用句を折に触れ提示したり、短文作りなどを取り入れたりして日常会話の中で使うように心がけ、語彙を増やしていきたい。 ・音読の際に、読点や句点を意識させ、文章をフレーズで読む習慣をつけさせる。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.9	77.0	75.6
	量と測定	59.9	54.8	56.5
	図形	71.4	77.4	76.3
	数量関係	63.1	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	63.9	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	72.1	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	69.7	69.1	68.4



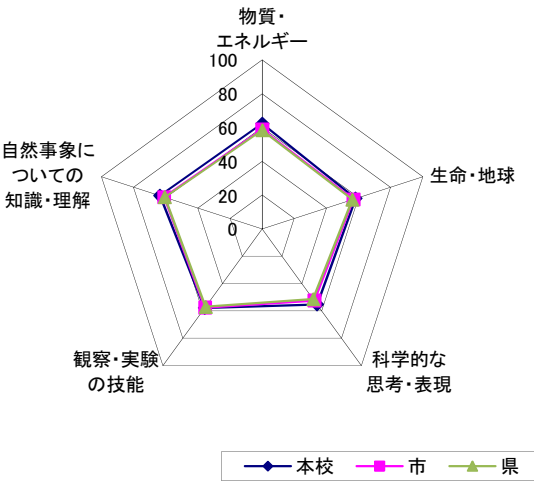
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は77.9%で、市の平均も県の平均も上回っている。 ○設問別に見ると、「2位数×3位数の整数のかけ算」「小数のしくみ」の正答率が高く、かけ算、わり算ともに比較的よくできていた。 ○「図を使って、倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶ」問題も正答率が高かった。 ●「大きな数」の内容で、「命数法で書かれた数を記数法で表す」問題は、正答率がやや低かった。	・かけ算やわり算、小数、分数の問題において、全体としては学習内容が比較的身に付いている結果ではあるが、さらに習熟するよう、ドリルなどを活用して繰り返し復習し、定着を図る。 ・概数の表し方や、億と兆の数における命数法と記数法の書き換えにおいても、重点的に復習し、確実な理解につなげたい。
量と測定	○平均正答率は、59.9%で、市の平均と県の平均をどちらも上回っている。 ○設問別に見ると、正方形の面積を求める問題での正答率が高かった。 ●「身近にあるものの面積を推察する」問題は、正答率が低く、県の平均よりも下回っていた。	・「面積の求め方」「角の大きさ」については、面積の単位や角のはかり方も合わせて、繰り返し問題を解き、忘れないように復習させる。 ・身近にあるものの面積や角を推察し、適切な単位を使って表す機会を意図的に設けるようにする。 ・面積の単位(m^2 ・ cm^2 ・ a ・ ha)の関係を繰り返し復習させ、身近なものの面積や広さを例示することによって実感を伴った理解につなげていきたい。
図形	●平均正答率は、71.4%で、市や県の平均を下回っている。 ●設問別に見ると、「ひし形の作図」や「立方体の展開図の理解」において正答率が低かった。 ○「四角形の対角線の性質の理解」や「立方体の見取り図から辺と平行な辺を選ぶ」等の問題は、比較的よくできていた。	・コンパスや定規等を正しく使って実際に作図する演習を繰り返し、技能の定着を図る。 ・立方体や立方体の辺や面の垂直・平行の位置関係については、今後も復習する機会を多く与えていく。
数量関係	●平均正答率は、63.1%で、市や県の平均を少し下回っている。 ●設問別に見ると、「文章から四則混合の式を立式し、正解を求める」「表にあてはまる数を求める」問題において、正答率が低かった。 ○「伴って変わる二つの数量の関係の立式」については、県の平均を7ポイント上回っていた。	・四則混合で()を用いた式の計算順序を復習し、定着を図るとともに、それらを使って、二つの式を一つにまとめるなどの式の操作を練習する機会を増やして慣れさせていく。 ・文章問題については、問題文から、図や数直線を使って考える過程を繰り返し復習することによって、理解の定着を図る。 ・棒グラフや折れ線グラフから数量関係を読み取る学習を、社会や総合学習などの他教科でも回を重ねることによって、経験を増やしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.4	59.0	58.3
	生命・地球	58.1	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	55.3	52.5	51.4
	観察・実験の技能	57.9	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	63.6	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は62.4%で、市や県の平均を上回っている。 ○「電流」の理解は、県の平均が40.7%であるのに対して、本校は77.1%と大きく上回っている。また直列つなぎや光電池についての正答率も県の平均を上回っていた。 ○閉じ込めた空気の体積や圧す力の変化についての問題では、どちらも約80%の正答率であった。 ○空気や金属を温めたときの体積の変化についての設問では、県の平均を10ポイント以上上回った正答率であった。 ●水が氷になると体積が増えることや、水が沸騰したときの泡の正体が水蒸気であることの理解についての設問は、正答率が低かった。	・授業の初めに、学習問題をはっきりとわかるように提示し、毎回の学習や実験の目的をよく把握させて進めることにより、受け身ではなく児童自らが主体的に課題解決に向かえるようにさせる。また、予想を立てさせそれを検証していく過程を大切に、児童の興味関心が持続するような授業展開や教材を工夫していく。 ・実験した内容を理解し、知識が身に付いている単元とそうでない単元があるので、単元の最後のまとめで、学んだことをもう一度振り替えられるようにしたり、内容を自分なりにまとめたりする時間を作り、知識の定着を図る。 ・学習した内容を日常生活の中で具体的に考えたりさせたりして、事象の仕組みや関係を考えていく力を育成していく。
生命・地球	○平均正答率は、58.1%で、市や県の平均より高い。 ○「月と星」の学習では、「月の一日の動き」や「星の動き」について90%近い正答率であった。 ○「一日の気温の変化の様子から天気を推測する設問」や「水の蒸発についての設問」でも、県の平均を16ポイント上回る正答率であった。 ●方位磁針の正しい使い方についての問題では、正答率が37.5%と低かった。 ●「季節と生物」では、どの設問も正答率が県の平均を下回っており、理解が十分ではなかった。	・昼間の観測が難しい天体の学習や、人体の内部の組織などの学習については、デジタル教科書やDVDなどの映像を活用して理解を深められるよう、教材を工夫していく。 ・実験・観察から考えたことを表現する力や科学的現象を説明する力をつけていけるように、授業においても自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力を育成する。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●学習面では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「むずかしい問題にであうと、やる気が出る」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」についての肯定的回答が、市や県の平均を下回っている。反面、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」についての肯定的回答率は高い。このことから、学習の有用性や必要性は実感しているが、学習意欲が今のところ高まっていないことがうかがえる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で授業の予習や復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」についての肯定的回答が、市や県の平均より低いことから、家庭学習の意欲も、高まっていないことがわかる。

●国語、社会、算数、理科について、「それぞれの教科は好きですか」に対しては、市や県の平均と比べ、肯定的回答がすべて高い。しかし、「それぞれの教科の授業の内容はよくわかりますか」に対しては、「はい」と答えた割合はすべての教科で市や県より高いものの、「いいえ」もすべて高い。このことから、それぞれの教科の学習内容をよく理解している児童も多いが、反面、理解できていない児童もいて、個人差が大きく、二極化の傾向がみられる。

○「クラスは発言しやすい雰囲気だ」「友達の前で自分の考えや意見を発表することはとく意だ。」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」では、肯定的回答が市や県の平均よりも高いことから、他人の話も受け止めながら、自信をもって発表したり授業に臨んだりすることができているといえる。

●「自分はクラスの人役に立っていると思う」「自分は家族の大切な一員だと思う」については、肯定的回答が市や県の平均を下回っていることから、自己肯定感があまり高くない傾向がある。

○「見てはいけないサイトにつながらないようにしている」では、肯定的回答が60%をこえ、市や県の平均よりも大きく上回っている。今後も家庭との連携を図りながら、ネットに関する害やトラブルを回避していくことに努めたい。